

みんなでできることから 子どもを真ん中に地域のつながりづくり

きっとあなたにも
できることがあります！

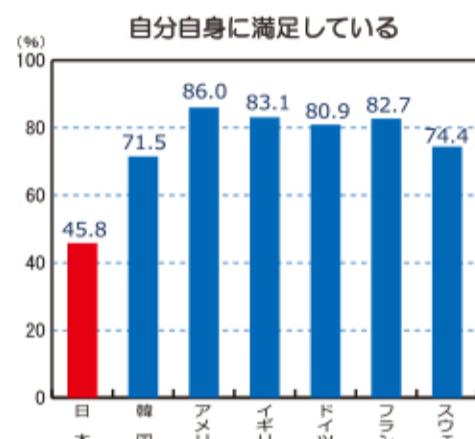
ひとこと、声を
かけるだけでも

子どもの豊かな成長を
促す「第三の大人」

親や教師ではなく、親せきや隣近所のおじさん おばさん お兄さん お姉さんといった「第三の大人」の存在は、子どもたちの豊かな人間性、社会性を育むうえで、大きな役割を果たします。



○ 「自分が好き」と言える子どもに



(注)「私は、自分自身に満足している」との間に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答したものの合計。

(内閣府調査 2014年 13歳～29歳)

自尊感情が低い日本の若者

「ありのままの自分を大切にする」自尊感情を高めることは、自分も他人も価値ある存在と認めることにつながります。この自尊感情は人格の発達や学力の向上、社会性の基礎を育んでいくといわれています。



○ 子どもへの暴力をなくそう！

児童相談所における児童虐待の対応件数は、159,850件(2018年速報値)。

これは統計を取り始めた1990年(1,101件)の145倍にも上っています。子どもへの虐待をなくすため、2019年6月、保護者等による体罰禁止を明記した児童虐待防止法等の改正が、全会一致で可決されました。



たたかぬ子育てが浸透したスウェーデン

スウェーデンは、1979年世界に先駆け、子どもへのあらゆる形態の体罰、精神的虐待を法律で禁止しました。

1960年代では体罰に肯定的な態度をとっていた人が50%をこえていましたが、2010年代には10%を下回るようになりました。法律ができることで皆の考え方が変わっていきます。

日本でも、様々な意識変革の取り組みが始まっています。

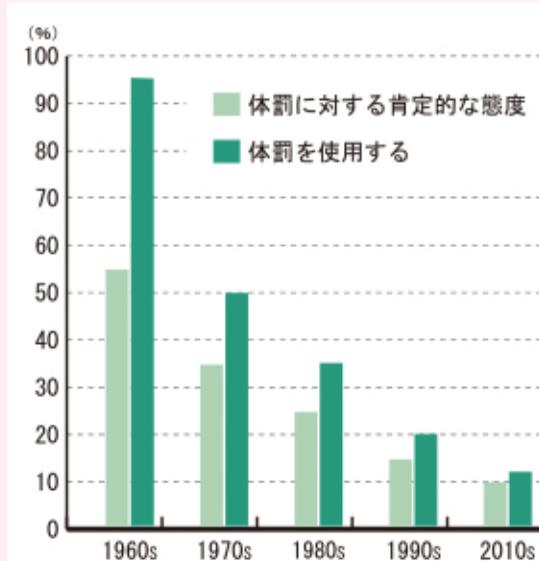
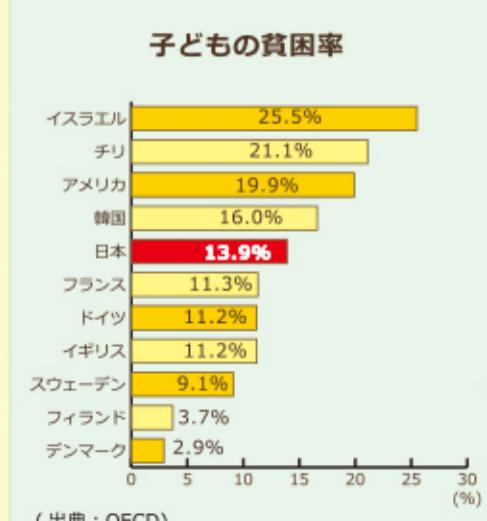
○ 子ども時代をのびのびと

格差社会のなかで育つ子どもたち

日本の子どもの7人に1人(13.9%)、ひとり親家庭では2人に1人(50.8%)が貧困状態^{*}にあります。

子どもが生まれ育った家庭の経済状態に拘わらず、未来への希望を持ち自立の力を伸ばす機会を提供することは、大人世代みんなの責任です。

*相対的貧困。食べることに事欠く絶対的貧困ではないが、可処分所得の中央値の半分以下の所得しかない状態。親子2人世帯で月額14万円以下。



※出典：冊子「子どもに対する暴力のない社会めざして」より（日本語版 制作指揮・監修 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）



子どもを健やかに
育むために
～愛の鞭ゼロ作戦～

(厚労省 HP 参照)